

第七十一回帝國議會
衆議院

陪審法中改正法律案委員會會議錄(速記)第二回

會議

昭和十二年八月二日(月曜日)午前十時二十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長代理理事中山福藏君

理事河野 一郎君 理事松本 弘君

平川松太郎君 岡本實太郎君

森田重次郎君 鈴木 英雄君

泉 國三郎君 江原 三郎君

飯村 五郎君 世耕 弘一君

菊地養之輔君 田中 耕君

馬場 元治君

七月三十一日委員立川平君辭任ニ付其ノ補關トシテ世耕弘一君ヲ議長ニ於テ選定セリ
七月三十一日裁判所構成法中改正法律案

第六類第五號 陪審法中改正法律案委員會會議錄 第二回 昭和十二年八月二日

(政府提出、貴族院送付)、大正十年法律第百二號中改正法律案(定年ニ因ル退職判事檢事ノ恩給ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)、刑事訴訟法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)、陪審法中改正法律案(牧野賤男君外八名提出)、陪審法中改正法律案(野田文一郎君外二名提出)及大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件)(森下國雄君提出)

出席政府委員左ノ如シ
司法政務次官 久山 知之君
司法參與官 藤田 若水君
司法省民事局長 大森 洪太君
司法省刑事局長 松阪 廣政君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

陪審法中改正法律案(政府提出)
裁判所構成法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
大正十年法律第百二號中改正法律案(定年ニ因ル退職判事ノ恩給ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)

刑事訴訟法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
○中山委員長代理 是ヨリ會議ヲ開キマス、本日ハ牧野委員長方缺席デアリマスカラ、私ガ代テ委員長ノ職ヲ執ルコトニ致シマス、就キマシテハ本日會議ニ付セラルル所ノ議案ガ相當アルノデアリマスガ、今日ハ初日デアリマスカラ、便宜上陪審法中

付託議案

陪審法中改正法律案(政府提出)
刑事補償法中改正法律案(中村高一君外十名提出)
大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件)(手代木隆吉君外三名提出)
大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件)(紅霞昭君外三名提出)
裁判所構成法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
大正十年法律第百二號中改正法律案(定年ニ因ル退職判事ノ恩給ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)
刑事訴訟法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
陪審法中改正法律案(牧野賤男君外八名提出)
陪審法中改正法律案(野田文一郎君外二名提出)
大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件)(森下國雄君提出)

改正法律案、是ハ政府提出ニ係ルモノデアリマス、ソレカラ裁判所構成法中改正法律案、是モ政府提出、貴族院カラ送付サレタモノデアリマス、尙ホ大正十年法律第百二號中改正法律案、是ハ定年ニ因ル退職判事ノ恩給ニ關スル件デアリマシテ、是モ同ジク政府提出、貴族院送付ニ係ルモノデアリマス、其次ニ刑事訴訟法中改正法律案、是モ同様デアリマス、右四ツノ案ニ付キマシテ、政府委員ノ御説明ヲ煩ハシタイト考ヘテ居リマス
○藤田政府委員 只今申サレタ順ニ説明ヲ致シタイト思ヒマス、陪審法中改正法律案ノ説明ヲ申上ゲマス、本案提出ノ理由ニ付キマシテハ、曩ニ本會議ニ上程ノ際ニ申述

ベタ通りデアリマスガ、茲ニソレヲ敷衍シテ提案理由ヲ御説明申上ゲタイト思ヒマス、陪審法施行以來約十年ヲ經過シテ居リマシテ、其間ニ於テ陪審ノ評議ニ付シマシタ總件數ハ四百六十餘件ニ過ギマセズ、其被告人ノ數ガ約五百名デアリマスガ、右事件ノ内共同被告人ノ最モ數ノ多カッタノハ八名デアリマスガ、是ハ殺人教唆強盜殺人事件デアリマス、又審理ノ爲ニ要シマシタ日數ノ最モ長カッタノハ七日間デアリマシテ、是ハ嬰兒殺人事件デアリマス、然ルニ今次ノ神奈川縣下ニ於ケル所謂集團放火事件ハ、豫審終結決定書ニ依リマスレバ、公判ニ付セラレマシタ被告人ノ數ガ九十名デアリマシテ、犯罪事實ガ十九ヲ算シテ居リマス、其被告人中ニハ、一人ニテ十餘ノ犯罪事實ニ關係セル者ガゴザイマスルト共ニ、各犯罪事實ガ概ネ數名乃至二十數名ガ共同セル牽連事件デアルバカリデナク、三年餘リノ間ニ於テ、何レモ當初ヨリ保險金取得ヲ目的トシテ犯サレタモノデアリマスカラ、之ヲ陪審ノ評議ニ付シマスル以上ハ、同一裁判所ニ於テ同一陪審ノ評議ニ付スルヲ以テ相當トスル事件デアリマス、斯ノ如キ事件ニ於キマシテハ、其公判ノ審理ニ長時間ヲ要シマスル爲ニ、長イ期間ニ互リマ

シテ、陪審員ノ滯留ノ場所及ビ陪審員ト他人トノ交通ヲ制限スルコトハ、陪審ノ公正ヲ期シマスル上ニ於テ避ケ難キ所デアリマシテ、其結果ガ陪審員ニ對シマシテ、其業務ノ抛擲等過大ノ負擔ヲ課スルノ餘儀ナキニ至リマスルノミナラズ、陪審員ハ記錄ヲ閱覽スルコトヲ許サレマセヌカラ、専ラ公判ニ於ケル被告人、證人等ノ供述ヲ聽取スルコトニ依ツテ、事案ヲ判斷シナケレバナラナイ關係上、複雑ニシテ審理ニ長期間ヲ要シマスル事件ニ付キマシテハ、記憶ノ忘失其他ノ理由ニ依リマシテ、到底適正ナル判斷ヲ期シ難イデアリマス、隨テ斯様ナ事件ハ、法律上當然陪審ノ評議ニ付セラルベキモノニ付テモ、又請求ニ依ツテ陪審ノ評議ニ付セラルベキモノニ付キマシテモ、今後復タ往々發生スルコトナキヲ保シ難イデアリマスカラ、共同被告人多數ニシテ、被告事件複雑ナル場合ニ於テ、公判ノ審理長期間ヲ要シ、且ツ陪審員ノ滯留ノ場所及ビ陪審員ト他人トノ交通ヲ著シク制限スル虞ガアリマスル時、是ダケノ條件ガ具ッテ居ル場合ニハ、事件ヲ陪審ノ評議ニ付セザルコトヲ得ルノ途ヲ開クノ必要ヲ感ジマシテ、本案ヲ提出シタル次第デアリマス、何卒慎重ナル御審議ヲ願フ次第デアリマス

次ニ裁判所構成法中改正法律案ノ提案ノ趣旨ヲ簡單ニ申上ゲマス、裁判所構成法中ニ特ニ緊切ノ必要ヲ感ズル事項ニ付キマシテ、最少限度ノ改正ヲ致シタイノデアリマスガ、其改正ノ第一點ハ、控訴院長ガ其管轄區域内ニ於キマシテ、地方裁判所ノ判事ノ代理ヲ命ズルコトヲ得ルノ範圍ヲ、適當ニ擴張シタイノデアリマス、昭和九年ノ本法ノ改正ニ依リマシテ、豫審判事ガ差支ノ爲メ判事ニ依ツテ取扱フコトヲ得マセズ、且ツ其裁判所ノ判事中ニ其代理ヲ爲シ得ベキ者ガナイ場合ニ於キマシテ、控訴院長ガ事件緊急ナリト認メマシタ時ハ、其管轄區域内ノ他ノ地方裁判所ノ豫審判事ニ、其代理ヲ命ズルヲ得ルノ途ヲ開キマシタノデアリマス、其成績ハ頗ル良好デゴザイマシテ、是ガ爲ニ困難ナル事件ノ處理ニ多大ノ效果ヲ收メルコトヲ得タノデアリマスガ、其後主トシテ刑事事件ニ付キ、複雑ニシテ困難ナル事案ガ各地ニ續發スル實情ニ鑑ミマシテ、只今申上ゲマシタル控訴院管内ニ於ケル判事ノ代理ノ便法ヲ、當ニ豫審判事ニ限リマセズ、之ヲ地方裁判所ノ判事ノ全部ニ及ボス必要ヲ生ジタ次第デアリマス、又斯クナリマシタナラバ、判事ノ定員ノ配置ノ問題モ餘程工合ヨクナルノデアリマス、尙

ホ現行規定ニ依リマス、ト、控訴院管内ニ於ケル判事ノ代理ノ便法ハ、地方裁判所ノ本廳ニノミ適用セラレマシテ、其支部ニハ適用セラレナイコトニナツテ居リマスガ、是ハ狹過ギマスカラ、此點モ併セテ擴張致シタイ考ヘテ居ルノデアリマス、次ニ第二點ハ判檢事ノ定年ニ因ル退職ノ時期ヲ調整シテ、年二回定期ニ纏メテ退職セシメントスルモノデアリマシテ、現行規定ノ下ニ於キマシテハ、判檢事ハ滿六十五年又ハ六十三年ニ達シマシタルトキハ、其時ニ於テ個々別々ニ退職スルコトニナツテ居リマスカラ、其都度人事ノ異動ヲ生ジマシテ、人事行政上支障ヲ生ズルコトガ尠クナイノデアリマス、殊ニ重要ナル地位ニ在ル判檢事ノ退職ノ場合ニ於テ、尙更左様デアアルノデアリマス、仍テ、右人事行政ノ圓滑ヲ期シマスル爲ニ、此點ヲ改正シテ、年二回ニ限ツテ始末ヲ付ケタイト云フ趣旨デアリマス、最後ニ第三點ハ、控訴院檢事局ノ監督書記ヲ、奏任官タル書記長ニ昇格セシムルト云フ案デアリマス、昭和十年ノ本法ノ改正ニ依リマシテ、大審院檢事局ノ監督書記ヲ書記長ニ昇格セシメタノデアリマスルガ、今回ハ控訴院檢事局ノ監督書記ノ地位ヲ、控訴院ノ書記長ト同様ニ奏任タル書記長ニ昇格セシ

メマシテ、之ニ依リ書記ノ向上ノ途ヲ開カントスルモノデアリマス、以上ノ趣旨ニ於テ本改正ヲ爲サントスルモノデアリマシテ、孰レモ急速ヲ要スルコトデアリマスカラ、本議會ニ提案シタ次第デアリマス、ドウゾ慎重御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ御願スル次第デアリマス、次ハ大正十年法律第百二號中改正法律案提案ノ理由ヲ申上ゲマス、現行法ニ依リマスルト、本法ノ施行セラレタ大正十年六月一日ノ當時、判事又ハ檢事ノ本官ニ在職シマシテ、爾後引續キ判事又ハ檢事トシテ在職スル者ガ、裁判所構成法第七十四條ノ二、又ハ第八十條ノ二ニ規定スル年齡、即チ大審院長及ビ檢事總長ハ滿六十五歲、其他ノ判事又ハ檢事ノ職ニ在ル者ハ滿六十三年ニ達シタル後退職シ、又ハ其官ヲ免ゼラレ、恩給ヲ受クベキ場合ニ於キマシテハ、其恩給年額ハ恩給法中文官ノ普通恩給ニ關スル規定ニ依リマシテ、計算シタル年額ニ其百分ノ三十二相當スル金額ヲ加ヘタルモノヲ給與セラレテ居ルノデアリマス、右年齡ニ達スル以前ニ退官退職シタル者ハ、ドウ云フ事情ニ依ッテ退職致シマシテモ、只今申上ゲマシタ所ノ増加恩給ノ支給ヲ受ケラレナイノデアリマス、斯様ナ次第デ、右資格ヲ有シマスル判事、檢事

ニシテ、定限年齡ニ達スル以前ニ退官退職シ、後進ニ途ヲ拓クコトガ漸ク困難ナル狀態ニ立至ッタノデアリマス、仍テ茲ニ本法律ニ定ムル年齡ヲ低下シテ、滿六十年ト致シマシテ、前ニ申シタ資格ヲ有スル判事、檢事ガ、此年齡ニ達シタル後退官退職シタル場合ニ於テハ、恩給年額ハ文官ノ普通恩給年額ニ其百分ノ三十ヲ加ヘタルモノトシマシテ、比較的高齡者ノ勇退スルコトヲ圓滑ニシ、新進有爲ノ者ノ進出ヲ容易ナラシメ、以テ司法部内ノ人事ノ刷新ヲ圖リタイノデアリマス、是レ即チ本法正案ヲ提出シタ次第デアリマス、ドウカ慎重審議ノ上協賛セラレンコトヲ希望致シマス、最後ニ刑事訴訟法中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ説明致シマス、刑事訴訟法中改正法律案ニ付キマシテハ、曩ニ本會議ニ上程ノ際ニ申上ゲタ通りデアリマスガ、茲ニ更ニ敷衍ヲ致シテ其理由ヲ説明申上ゲマス、從來各國ノ立法例ニ於キマシテ、大審院ガ上告裁判所トシテ専ラ法律上ノ審査ヲ爲ス制度デアリマスコトハ、御承知ノ通りデアリマスガ、大正十三年一月一日カラ施行セラレマシタ所ノ現行刑事訴訟法ニ於キマシテハ、其制度ニ改革ヲ加ヘマシテ、我國ニ於ケル最初ノ試ミト致シテ、法令ノ違反ヲ理由トシテ上告ヲ

爲スコトヲ得ルノ外ニ、一定ノ場合ニハ事實ノ認定及ビ刑ノ量定ニ付キマシテモ、亦上告ヲ以テ之ヲ爭フコトガ出來得ルコトニ致シタルデアリマス、即チ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由アルトキ、再審ノ請求ヲ爲シ得ベキ場合ニ當ル事由アルトキ、又ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スベキ顯著ナル事由アルトキニハ、之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ト致シタルデアリマス、而シテ是等ノ事由アル場合、竝ニ事實ノ確定ニ影響ヲ及スベキ法令ノ違反ヲ上告理由トシタ場合ニ於キマシテハ、大審院ハ自ら事實ノ審理ヲ爲スベキモノト致シテ居ルノデアリマス、蓋シ飽マデモ裁判ノ誤ヲ正シテ、無辜ノ罰セラレ、コトノナイヤウニ、公正妥當ナル裁判ヲ期セントスル趣意ニ外ナラナイノデアリマス、併シナガラ現行刑事訴訟法ノ實施後、爾來十數年ノ間、上告裁判所ニ於ケル事實ノ審理ノ情況ヲ見マスルニ、上告裁判所ノ所在地ト被告人ノ住所地又ハ犯罪地トガ、相距ルコト遠イガ爲ニ、證人、鑑定人等ノ訊問ノ爲メ、上告裁判所ニ其出頭ヲ求メルコトニ致シマシテモ、亦上告裁判所ガ自ラ現場ニ出張シテ檢證ヲ爲スニ致シマシテモ、不便ナル場合ガ屢々起ルノデアリマス、

固ヨリ受命判事又ハ受託判事ニ依ッテ取調ヲ爲スノ方法モアリマスガ、左様ナ場合ノミニ致シテ置キマシテハ、動モスレバ直接審理ノ趣旨ヲ貫徹シ難キ憾アルモノト謂ハネバナリマセヌ、仍テ司法部ト致シマシテハ、裁判所竝ニ訴訟關係人ノ便宜ヲ考慮シマシテ、大審院ニ於ケル事實審理ノ制度ニ關シ、現行刑事訴訟法ニ何トカ適當ナル改正ヲ加ヘナケレバナラヌ必要ヲ認メマシタノデ、此制度ノ改善ニ付キマシテ、朝野ノ關係各方面ニ對シテ其意見ヲ求メ、更ニ昭和十年四月カラ設ケラレマシタ司法制度調査會ニ諮問致シマシテ、此ノ點ニ關スル調査審議ヲ求メタノデアリマス、所ガ幸ヒ其答申ヲ得マシタノデ、大體其趣旨ニ基キマシテ研究ノ結果、本改正案ノ通リ成案ヲ得タ次第デアリマス、實ハ曩ニ第七十回帝國議會ニモ同一ノ改正案ヲ提出致シマシテ御審議ヲ願ッタノデアリマスガ、議會解散ノ爲ニ審議未了ニ終ッタノデアリマス、仍テ茲ニ再ビ提案シタ次第デアリマスガ、本案ノ改正ノ第一點ハ、從來ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スベキ顯著ナル事由、再審ノ請求ヲ爲スベキ場合ニ當ル事由、重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由、又ハ事實ノ確定ニ影響ヲ及スベキ法

令ノ違反アルトキハ、必ず上告裁判所ニ於テ自ラ事實ノ審理ヲ爲スコトヲ要スルモノデアリマスガ、本改正案ニ於キマシテハ、以上ノ上告理由アル場合ニ於テ、上告裁判所自ラ事實ノ審理ヲ爲スヲ適當トスルトキハ、從來ノ通り事實ノ審理ヲ自ラ爲シ、又自ラ事實ノ審理ヲ爲スヲ適當ナラズトスルトキハ、原判決ヲ破棄シテ事件ヲ原裁判所ニ差戻スカ、若シクハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スルコトニ改メタイノデアリマス、而シテ此差戻若シクハ移送ノアリマシタル事件ニ付キマシテ裁判ヲ爲ス場合ニハ、曩ニ原判決ニ關與シタ判事ヲシテ、其裁判ニ關與セシメナイト云フ、除斥ノ規定ヲ設ケマシタガ、是ハ飽マデモ裁判ノ公正ヲ期セントスル趣旨ニ外ナラナイノデアリマス、改正ノ第二點ハ、事實ノ誤認及ビ刑ノ量定不當ヲ理由トスル上告ニアリマシテハ、其理由頗ル廣範圍ニ互リマシテ、上告趣意書ニハ上告ノ理由トシテ幾多ノ事實問題ガ詳細ニ掲ゲラレテ、誠ニ龐大ナル上告趣意書ガ差出サレト云フ實情デアアルノデアリマス、而シテ刑事訴訟法上、上告裁判所ノ判決書ニハ、上告ノ趣意及ビ重要ナル答辯ノ要旨ヲ記載セネバナラスコトニナツテ居リマス、即チ上告趣意書ノ中ニ包含

セラレタル事項ハ、其重要ナルト然ラザルトヲ問ハズ、全部之ヲ判決書ニ記載セネバナラスコトニナツテ居リマスノデ、茲ニ改正ヲ加ヘマシテ、上告ノ趣意書中事實問題ニ付キマシテハ、其必要ナラザル部分ハ判決書ニ是ガ記載ヲ省略スルコトヲ得ルヤウニ、即チ刑事訴訟法ノ第四百五十三條ニ但書ヲ設ケタイノデアリマス、是ハ上告裁判所ガ裁判ヲ爲スニ當リマシテ、成ベク不必要ナル勞力ヲ省イテ、十分ニ本來ノ機能ヲ發揮スルコトガ出來ルヤウニ致シタイ趣旨ニ外ナラナイノデアリマス、何卒只今申述ベマシタル上告裁判所ノ實情ヲ御洞察下サイマシテ、速ニ御審議ノ上御協賛ヲ願フ次第デアリマス

○中山委員長代理 此際皆様方ニ一ツ御願ガアルノデアリマスルガ、御承知ノ通りニ當議會ハ極メテ短期デアリマシテ、十分ナル審議ヲ盡スコトガ出來ルカドウカト云フコトハ、非常ニ疑問ト存ズルノデアリマスルガ、併ナガラ期間ガ短イト云ツテ、民權ニ關スル重大ナル事項ヲ等閑ニスルト云フコトハ、斷ジテ出來ナイコトデアリマスルカラ、斯様ナ考カラ致シマシテ、委員ノ方々竝ニ政府委員ノ方々ハ十分ニ一ツ豫メ御準備ヲシテ戴キマシテ、出來ルダケ要點ニ觸

レテ早ク審議ヲ進メタイト、斯様ニ私考ヘテ居ルノデアリマス、隨テ出來マスルナラバ、皆様方委員ノ方々ノ必要ト存ゼラレマスル所ノ資料ノ提供ニ付テノ御意見ガアリマスルナラバ、此際便宜上政府委員ノ方ニ要求シテ置カレル方ガ宜イト思ヒマス

○鈴木委員 書類ノ提出方ヲ要求致シマス一、歐米各國ニ於ケル陪審ノ法制二、集團的犯罪ニ付陪審ニ付セザル規定ヲ設ケタル國アレバ其國竝ニ其法制ノ内容

三、歐米各國ニ於ケル陪審裁判ニ於テ最モ長キ審理日數ヲ要シタル事件ノ實例四、歐米各國ノ陪審裁判ニ於テ辯護人ノ辯論ニ最モ多クノ日數ヲ要シタル實例五、我國陪審制度施行以來審理セラレタル陪審事件數及審理日數竝ニ其事件ノ概要尙ホ再陪審ニ付シタル事件數及其件名被告人ノ氏名再陪審ノ結果六、古來我國ニ於テ再陪審類似ノ裁判ヲ爲シタル事實アレバ其事歴七、橫濱地方裁判所ニ繫屬セル所謂放火團事件ノ件數各事件ノ被告人ノ數竝ニ各事件ニ牽連關係ヲ有スル被告人ノ數竝ニ其牽連事實八、同事件ノ各被告人ヲ警察署ニ於テ留

置シタル日數右ハ各被告人別ニ明示シ竝ニ其留置ノ理由ヲ示サレタシ九、同事件ニ於テ豫審免訴ト爲リタル事件數被告人ノ氏名其豫審決定書十、同事件ニ於テ公判ニ付セラレタル事件ノ豫審決定書

十一、放火團事件ニ於ケル各被告人ノ拘留日數及審理日數殊ニ檢事ノ取調べタル日時司法警察官ノ取調べタル日時豫審判事ノ取調べタル日時ヲ各刑務所ノ日誌ニ基キ説明セラレタシ十二、同事件ニ於テ各被告人ガ刑務所ヨリ裁判所ニ出頭シタル時刻取調開始ノ時刻終了ノ時刻十三、同事件ニ於ケル各被告人ノ刑務所ニ於ケル健康狀態ヲ記シタル日記十四、同事件ニ於テ拘留中自殺ヲ企テ又ハ自殺シタル者ノ氏名竝ニ其原因若シ遺言書アレバ其遺言書十五、神奈川縣浦賀警察署長等ニ對スル警官拷問事件ノ陪審決定書竝ニ判決謄本

○岡本委員 私モ資料ノ要求ヲ致シマス、

既ニ鈴木委員カラ大分詳細ニ申サレマシタ
カラ重複ヲ省キマシテ唯一ツ申上ゲマス、
横濱地方裁判所ニ繫屬致シテ居リマス、所
謂放火團事件ノ豫審終結決定書、是ハ理由
ヲ書クト長イデセウカラ、主文ダケデ結構
デス、豫審終結決定書ノ主文及ビ關係ノ豫
審判事ノ名前、併セテ各事件ノ係檢事及ビ
所屬ノ取調ベタ其警察署、之ヲ御提出ヲ願
ヒマス、鈴木君ノ言ハレタノデ餘程分ルコ
トト思ヒマスガ、尙ホ少シ趣旨ノ違フ所ダ
ケヲ申上ゲマス

○中山委員長代理 モウ外ニアリマセスカ

○河野委員 私ハ此際司法當局ニ御願ガア
リマスガ、前議會ノ七十議會ニ於キマシ
テ、私カラ神奈川縣下ニ於ケル人權蹂躪ノ
事實ニ付キマシテ、御調査ヲ司法當局ニ御
願ガシテアルノデアリマス、ソレヲ次期議
會マデニ調査ラシテ御返事ヲ下サルコトニ
ナッテ居リマスノデ、司法制度ヲ刷新シテ司
法權ノ威信ヲ回復スルト云フ意味合デ、今
回總テノ法案ヲ御提出ニナッテ居ルヤウニ
承リマスノデ、定メシソレ等ノ調査モ出來
テオイデルコトト考ヘマスノデ、幸ヒソレ
ヲ御提示下サレバ、我が司法當局ノ御熱意
ノ程ガ、吾々ハ拜察スルコトガ出來ルト思
ヒマスカラ、モウ時日モ半年以上前ニ出シ

テアルコトデアリマスカラ、若シソレガ未
ダ完了シテ居ラナケレバ、調ベノ付イテ居
ルモノダケデ結構デアリマス、大分件數モ
多イノデアリマスカラ、百二十餘件ニ及ッテ
司法大臣ニ慥カ提出シテアリマスカラ、定
メシ全部デナクテモ、相當ノ取調ハ付イテ
居ルコトト考ヘマスノデ、其取調ノ結果人
權蹂躪ノ事實アリヤナシヤト云フコトノ御
調ノ結果ヲ、此處ニ御提出願ヘレバ大變
結構ダト考ヘマス、其外色々鈴木委員カラ
御願致シテアリマスノデ、重ネテ御願スル
コトモナイト考ヘマスケレドモ、是ハ特ニ
委員長ニ御願シテ置キマスガ、此委員會ノ
審議ニ當ッテハ、内務當局モ是非都合シテ御
出席願ヒマセヌト、兩方トモ關聯スル問題
ガ起ッテ來マスカラ、ソレヲ是非御願シテ置
キマス、ソレト同時ニ、特ニ私が陪審法ノ
改正ヲ提出セラレマシタ趣旨ヲ承リマス
ト、事件ヲ分離スルコトガ出來ナイ、分離ガ
困ルト云フヤウナ意味カラ、提案ノ理由ニ
ナッテ居ルヤウデアリマスガ、吾々ノ經驗ニ
依リマス、司法當局ガ故意ニ事件ヲ分離
スルノデヤナイカと思ヘル程、司法裁判ヲ
サレル人ガ分離サレル、其爲ニ非常ニ辯護
士ノ方デ迷惑ヲサレテ居ル、困ッタト言ハレ
ル事件ガ非常ニ多イノデアリマス、ドウモ

一般ノ地方人カラ考ヘマスト、無理ニ人ヲ
罪ニスル爲ニ事件ヲ分離スル、檢事ガ威嚴
ヲ保持スル爲ニ事件ノ分離ヲサセルト云フ
ヤウニ見エルコトガ非常ニ多イ、ドウモ裁
判上司法當局ガ自分ノ御都合デハ分離ラス
ル、自分ノ御都合デハ、分離スルト無罪ニ
ナリサウナモノハ分離ニ反對スル、今度ノ
放火團事件ノ如キハ、分離ラシテヤレバ無
罪ニ皆ナリサウダ、分離ハ出來ナイ、ト云
フヤウニ見エマスコトハ甚ダ遺憾デアリマ
スノデ、由來司法當局ガ裁判スル時ニ、分
離ラシタ數ト分離ラセズニ片付ケル數ト、
例ヘバ選舉違反ナラ選舉違反ノ事件デ、一
ツノ事件ニ付テ被告ガ十人、十五人アル、
其十人、十五人アルモノヲ分離ラシタ裁判
ノ件數ト、分離ラセズニ裁判ラシタ件數ヲ
比較シテ、其比較表ヲ一ツ御示ヲ願ヒタイ
ノデアリマス、是ハ一般ニ非常ニ疑惑ヲ持ッ
テ居ルノデアリマス、デスカラ大分御手數
モ掛ルデセウガ、事件ノ審理ニ當ッテ事件ヲ
分離シテ調ベタ件數何件、分離セズシテ調
ベタ件數ガ何件、關聯シタ被告ガ十人以上
アツタ場合ニ、ソレヲ分離シテ調ベタ件數ガ
何件、分離セズニ調ベタ件數ガ何件ト云フ
ヤウニ、ソレヲ對照シタノヲ御提出願ヒタ
イト思ヒマス

○中山委員長代理 一寸河野君ニ御伺シマ
スガ、サウスルトアナタノ要求セラレタ重
點ハ二ツアル譯デスネ

○河野委員 二ツアルノデス

○飯村委員 私ハ議事進行ニ付テ一言申上
ゲタイト思ヒマス、司法省關係ノ重要ナ法
案ガ多數上程致サレマシタル此機會ニ於キ
マシテ、司法大臣ガ病床ニ居ラシヤルコト
ハ、國家ノ爲ニ遺憾千萬ニ堪ヘナイノデア
リマス、又司法大臣ノ御心中ヲ拜察シテ、
洵ニ感無量ナルモノガアルト存ズルノデア
リマス、其後ノ病狀ハ如何ナル經過ニアリ
マスカ、當議會中登院ノ見込ガ果シテ可能
デアルカ可能デナイカ、ソレニ依ッテ吾々ハ
本委員會ニ於ケル審議ノ重要ナル參考ニ相
成リマスノデ、先ヅ委員長ニ於ケレマシテ、
其邊ノ今後ノ登院見込如何、斯ウ云フコト
ニ付テ委員長ヨリモ一應政府ニ御確メ願ッ
テ、本委員會ニ御報告ヲ願ヒタイト思ヒマ
ス

○中山委員長代理 委員長ヨリモ一應其事
ハ政府ニ確メマス、併シ此場合便宜上政府
委員ニ御分リニナッテ居ル方ガアリマスレ
バ、御報告ヲ願ッテ置キタイト思ヒマス

○藤田政府委員 何カ下痢シタヤウナコト
デ、非常ニ熱發シタノデアリマスガ、其熱

モモウ冷メテ居リマス、本日一日位靜養致シマスレバ、明日以後ハ登院出來ルドラウト思ヒマス、無理ニ參リマスレバ、今日デモ來ラレヌコトハナイカモ分ラナカッタノデアリマスケレドモ、無理ヲシマシテ又明日カラ引返シテ、大事ノ時機ニ續ケテ健康ヲ害シテハイカヌデスカラ、實ハ私止メテ來タノデス、ソレデアリマスカラ、明日ハ出テ參リマスカラ御安心下サイ

○飯村委員 只今政府委員ノ御答辯ヲ承リマシテ洵ニ安心ヲ致シマシタ、私共ハ無理ニ出テ戴キタイト云フ希望ヲ有スルノデモ何デモナイノデアリマス、唯出ラレルカ出ラレヌカニ付キマシテハ、吾々ノ質疑ノ態度ニ付テ參考ニナル爲ニ御伺致シタノデアリマス、大變安心ヲ致シマシタ

○中山委員長代理 此場合一ツ政府委員ノ方ニ私カラ御伺致シテ置キタイトノデス、是ハ各委員ノ方ノ御質問ニナル便宜モアルト思ヒマスカラ伺フノデスガ、ソレハ陪審法ニ付テハ、現在政府カラ改正法律案トシテ提出セラレテ居ル部分ノミガ、陪審法中ニ於ケル所ノ缺點トシテ、此部分ダケヲ御出シニナッタノカ、或ハマダ他ニモ澤山缺點ハアルケレドモ、ソレハ相當ノ時機ヲ見計ツテ御出シニナル覺悟ノ下ニアルノデアルカ、

此點ヲ政府委員ノ方ニ一ツ豫メ御伺致シテ置キタイト思ヒマス、是ハ質問ナサル方ノ便宜ニナルト思ヒマスカラ……

○松阪政府委員 只今ノ問題ニ付キマシテハ、相當重要ナ問題デアリマスカラ、折角研究シナケレバナラスノデアリマス、只今直チニ改正ヲ企圖スルト云フ考ハ持ッテ居リマセヌ

○平川委員 私ハ資料ノ提出ヲ要求シテ置キタイトノデスガ、先程鈴木君カラ殆ド全部要求サレテ居リマス、其中ニ警察署ニ於ケル各被告ニ對スル拘留日數ト云フコトガアリマシタガ、ソレニ附加ヘテ、各被告ハ二箇所乃至三箇所ノ警察署ニ廻廻シニ依ッテ留置セラレテ居ル、其留置セラレタル各警察署名、是モ序ニ御示シテ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ陪審法中改正法律案ニ添付シテアリマス所ノ一番終ヒノ頁ノ「神奈川縣下集團放火被告事件一覽表」、是ガ能ク分ラナイノデスガ、此説明ヲ一ツ御願シタイト思ヒマス

○松阪政府委員 御手許へ差上ゲマシタ表ニ付テ説明致シマス、此表ハ先般豫審ニ於テ有罪決定ニナリマシタ各被告人、名前ハ分ッテ居ルノデアリマスガ、被告ノ名譽ノ爲モアリマスカラ、之ヲ公表スルコトヲ避ケ

マシテ、一號カラ九十號マデ番號ヲ以テ表示シタノデアリマスガ、何レモ一號乃至九十號ハ各被告人ノ人員、其氏名デアリマス、ソレカラ縦ニ書キマシタ一カラ十九マデ、一番初メニアリマスモノハ放火ヲシタト云フ年月日、ソレハ豫審決定ニ於テ認メラレタル放火ノ年月日デアリマス、其次ニ書キマシタノガ、何處ノ場所デ何ノ某方ニ放火ヲシタト云フ、事實關係ヲ左ノ方ニ表ハシテ置イタノデアリマス、ソレカラ各氏名ノ下ニ丸ガ書イテアリマスノハ、例ヘバ第一ナラ第一ノ所ニ丸ガ書イテアリマスノハ、第一ノ放火事實ニ關與シタ被告人ノ員數デアリマス、右ノ端ニ其共犯ノ總數ガ出シテアリマスガ、例ヲ舉ゲテ申シマス、第一ノ昭和七年二月二十八日ノ松田町ノ小川ト云フ家ノ放火ニハ、第一號ノ被告人及ビ第五號ノ被告人以下十八名ノ共犯者ガアリマシテ、十八名ノ者ガ共同シテ此放火ヲ行ッタト云フ決定ニナッテ居ルノデアリマス、第二ノ事實ハ、七年ノ四月二十一日ニヤハリ松田ノ吉田ト云フ家デ放火ガ行ハレタ事件デアリマス、ソレニハ一號ノ被告人以下二十二名ト云フ合計數ガ出テ居ルノデアリマス、即チ二十二名ノ共犯ガアッタ、二十二名ガ共謀シテ放火シタ、第三ノ事實ハ、二十

四名ノ共謀ト云フコトニナッテ居リマス、詰リ此表ヲ御覽下サイマスルト、横ノ關係ニ於キマシテ、或ル一ツノ事件ニ何人ノ共犯者ガアルカト云フコトガ御分リニナルコトト思ヒマス、ソレカラ縦ノ關係ニ於キマシテ、一號ナラ一號ノ人間ガ第一ノ事實、第二ノ事實、第三ノ事實、第五ノ事實ト云フ風ニ、是ハ合計十四ノ事實ニ關與致シテ居ルノデアリマス、一號ノ被告人ハ十九ノ犯罪事實ノ中ノ十四ノ事實ニ關與シ、二號ハ七ツノ事實ニ關與シテ居ル、三號ノ被告人ハ十一ノ事實ニ關與シテ居ル、縦ノ關係ト横ノ關係ノ牽連關係ガ之ニ依ッテ御分リニナルコトト存ジマス、ソレカラ尙ホ申上ゲテ置カナケレバナリマセヌコトハ、此表ハ足柄上、下ニ於ケル集團放火事件ノ表デアリマス、此外ニ城ケ島ノ放火事件ノ事實ガゴザイマス、是ハ二十六名ノ共同被告ガアル事件トシテ檢事ガ起訴致シタノデアリマスガ、豫審ノ結果ニ依リマスルト、或ル一名ノ者ノ單獨放火デアルコトヲ認メマシテ、一名ヲ有罪決定ヲ致シ、他ノ二十五名ヲ嫌疑ナキモノトシテ免訴致シタノデアリマス、其城ケ島ノ分ハ、只今御手許ニ差出シタル表ノ中カラハ除イテアリマス、是ハ單獨ノ一人ノ放火デアリマスカラ、牽連關

係ヲ有チマセヌ、尙ホ此表ニ依ッテ御覽下サ
イマシテモ分リマス如ク、十九ノ事實ハ全
部牽連關係ヲ有ツト云フ譯デハゴザイマセ
ヌ、第四ノ事實ヲ御覽下サイマスト、昭和
七年七月八日ニ松田町ノ片岡ト云フ家ニ行
ハレマシタル放火ハ、或ル一人ガ單獨ニ放
火シタモノト豫審決定デハ認メラレテ居リ
マスカラ、其被告人ノミノ關係デアリマシ
テ、他ノ共同被告人ガナク、他ニ連續犯ノ
關係モナク、全ク別箇獨立ノ事件デアリマ
スカラ、是ハヤハリ別ニ致シマシタ、ソレ
カラ最後ニ第十九ノ事實ハ、五名ノ共謀ト
云フコトニナッテ居リマスガ、此五名ハ他ノ
放火トハ全然關係ヲ有チマセヌノデ、是モ
切離セバ切離シテヤリ得ル事件デアリマ
ス、デ是ハ他ト牽連關係ヲ有タナイト云フ
コトヲ申上ゲテ置キマス、アトノ十七ノ事
實ニ付キマシテハ、此表ヲ御覽下サイマシ
テモ分リマス如ク、横ノ關係カ縦ノ關係カ
ニ何レモ牽連ヲ有ツト云フコトニナリマ
ス、結局八十四名ノ被告ハ何レカノ事件ニ
牽連關係ヲ有ツト云フコトニナルノデアリ
マス

○馬場委員 頂戴致シマシタ參考書ノ第一
頁ニ載ッテ居ルノデスガ、陪審事件ノ各地方
裁判所別ノ件數、ソレカラ犯罪ノ名及ビ上

告ノ件數、之ヲ御提出願ヒタイ、御渡シ願
ヒマシタモノデハ、昭和十年ノ分ダケシカ
分リマセヌ、而モ全國一括シテノ表ノヤウ
デアリマスガ、陪審制度ガ實施サレマシテ
以來ノ各地方裁判所別ノ件名ト犯罪名、ソ
レカラ其儘確定致シマシタ分ト、更ニ上告
致シマシタ分、之ヲ表ニ製作シテ戴ケバ結
構ト思ヒマス、ソレカラ陪審制度ノ實施以
來ノ陪審ニ要シマシタ費用、ソレガ明ニナ
リマスレバ、其表ヲ御出シ願ヒタイ

○中山委員長代理 外ニ御要求ニナル方ハ
アリマセヌカ、ナケレバ本日ハ此程度デ散
會致シマシテ、次會ハ公報ヲ以テ御通知致
シマス

午前十一時十分散會

昭和十二年八月二日印刷

昭和十二年八月三日發行

衆議院事務局

印刷者 民友社印刷所